

令和8年度～令和17年度
さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画（3期）

波照間島

策定主体：波照間島さとうきび増産プロジェクト会議

地域において目指す姿

波照間島

波照間島では、生産者の高齢化が進む中、さとうきび産業の持続的な発展に向けて、収穫作業の機械化と作業受委託体制の整備が重要な課題となっている。地域では、生産組合などの組織強化を通じて効率的な作業体制を構築し、収穫面積の維持・拡大を目指す。

また、担い手の育成により次世代の農業基盤の確保を推進し、生産技術面では省力的かつ含みつ糖製造に適した品種の導入と、現場で実践可能な新しい栽培技術の普及が重要である。これらの取り組みにより、波照間島は地域に根ざした持続可能なさとうきび産業の確立を目指す。

増産計画目標

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t/10a)				生産量 (t)				
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
R6年産策定時	122.0	0.4	97.0	219.4	7.7	7.3	4.2	6.1	9,370.0	26.0	4,024.0	13,420.0	
R8年産	目標	125.0	3.0	87.0	215.0	6.5	4.0	4.0	5.5	8,125.0	120.0	3,480.0	11,725.0
R9年産	目標	125.0	3.0	87.0	215.0	6.5	4.0	4.0	5.5	8,125.0	120.0	3,480.0	11,725.0
R10年産	目標	100.0	2.0	100.0	202.0	6.5	4.0	5.0	5.7	6,500.0	80.0	5,000.0	11,580.0
R17年産	目標	80.0	5.0	120.0	205.0	6.5	4.0	5.0	5.6	5,200.0	200.0	6,000.0	11,400.0

(2) 担い手育成目標

	区分	認定農業者			受託組織		大規模生産農家	
		数	面積 (ha)	生産額 (万円)	数	面積 (ha)	数	面積 (ha)
R6年度策定時		9			1			-
R8年度	目標	9			1			-
R9年度	目標	10			1			-
R10年度	目標	10			1			-
R17年度	目標	15			1			-

(3) その他地域で独自に設定する目標

		-		-		-		-
R6年度策定時		-		-		-		-
R8年度	目標	-		-		-		-
R9年度	目標	-		-		-		-
R10年度	目標	-		-		-		-
R17年度	目標	-		-		-		-

(4) 分析と評価

① 2期計画で挙げた課題

・適期植付、肥培管理 ・単収向上 ・優良種苗の確保、増産 ・生産組合の活性化

② ①で挙げた課題に対して解決に向け取り組んだ内容

・農作業機械の導入 ・優良種苗安定確保事業の活用 ・受委託組織の組織化

③ ①で挙げた課題のうち②により解決した課題

適期植付、肥培管理 ・優良種苗の確保、増産

④ ①で挙げた課題のうち解決できなかった課題とその要因

適期植付、肥培管理(農作業機械の十分な確保が行えていない。)
生産組合の活性化(受委託を担える農業者の育成が不十分。)

⑤ 新たに生じた課題

・地力低下による反収の低下(緑肥栽培の推進) ・オペレータ不足による機械の有効利用 ・肥料・農薬の価格高騰
・干ばつ対策

⑥ 令和17年産目標に向けた現状評価及び見通し

・担い手不足により夏植面積の維持が困難と思われるため、株出面積を増やし、肥培管理の徹底を図る。

(5) 地域重点事項(地域独自で取り組んでいる重点事項を記載)

・受委託作業の組織化や農作業機械オペレータの育成
・地力向上に向け、緑肥や堆肥等を用いた積極的な土づくり

(6) 以下の項目のうち重要（特に議論すべき）と考える項目を3つ程度選択して✓を入れて下さい。

1 経営基盤の強化

- 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保
- 農業共済制度への加入促進

2 生産基盤の強化

- 気象災害に強い生産基盤の整備
- 機械化一貫体系の確立
- 地力の増進

3 技術対策

- 病虫害防除
- 台風・干ばつ対策
- 優良品種の選択・普及

4 その他（自由記述）

※✓した項目については、OPの「～～」を作成する

目標達成に向けた取組計画

I 経営基盤の強化

① 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保

【現状】

・さとうきび生産者のうち認定農業者は平成27年の10人から令和6年は9人であり、法人0、生産組合1の担い手形態である。

・農地中間管理機構の活用について、現在遊休農地はあるが、雑木の繁茂により重機での伐開が必要で利用が進まない圃場がある。また、出し手の情報が少なく掘り起こしが必要となっていることに加えて、今後担い手の減少に伴い遊休農地が増加することが懸念される。

	R6	育成目標(R7以降)
認定農業者数	9	30
生産法人数	0	0
受託組織数	1	1

【課題】

- ・農地利用集積については、出し手の情報が少なく掘り起こしが必要である。
- ・植付、肥培管理の受委託体制を構築する必要がある。
- ・高齢化に伴い、今後の担い手育成が必要である。
- ・機械受委託組織が共同作業で収穫等を行っているが、今後は厳しくなることから機械化の推進が必要である。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・農地中間管理機構の利用拡大(農地中間管理機構)
- ・農作業受託の効率化(工場、生産組合)

【計画】

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・OCR調査時にさとうきび農家への今後の生産意向について確認し、さとうきび農地の貸し借りを推進する。
- ・引き続き各種オペレータ研修や各種機械実演会を通して生産法人等、オペレータの育成を実施する。

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・地域計画の元、地域の話合いに参加し、さとうきび栽培の担い手へスムーズに引き継ぎ、農地中間管理機構を活用しさとうきび農地の集積・集約化を支援する。耕作放棄地になった農地からさとうきび農地へ転換できるよう、関係機関と連携する。

【自由記述欄】 ※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

Ⅰ 経営基盤の強化

② 農業保険の加入促進

【現状】

さとうきび生産農家の経営安定を図るため、農業共済組合八重山支所と連携し農業共済制度の普及・啓発、加入促進を図っているが、農家には収入保険制度に対する認識不足が見られるため、制度の理解促進が課題となっている。この状況を受け、説明会やOCR調査の機会を活用し、関係団体と連携しながら共済加入の促進と制度の普及啓発に取り組んでいる。

<農業共済加入状況>

	H26	R5	R6
共済加入戸数	90	45	67
(率)	80.4	57	70
引受面積(ha)	203.9	141.5	169.8
(率)	93.2	60	89

【課題】

- ・農家の共済制度に対する理解が十分でなく、一層の制度周知が必要。
- ・収入保険制度の周知が必要。
- ・高齢者や小規模農家は加入意欲が低く、共済制度加入への関心が薄い。
- ・大規模農家では掛金の負担が大きいため、加入率の低下が懸念される。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・共済制度や収入保険のパンフレットを作成し、各種会議でPRを実施した（共済組合）
- ・品目別経営安定対策要件申請（OCR調査）等と併せた加入促進（共済組合、JA、町）

【計画】

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・共済制度への理解を得るため、引き続き集落、生産組合単位での共済制度説明会を開催し、引受推進に努める。
- ・共済加入率の増加に向けて、パンフレットを活用し、製糖終了報告会やさとうきび生産組合の会議等に合わせ、関係機関（農業共済組合やJA等）と連携し加入を推進する。

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・栽培管理改善による単収の向上で収益を増やし、共済加入への意欲を高める
- ・農業共済のパンフレットやチラシを活用し、加入の斡旋を継続して行う

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

2 生産基盤の強化

① 気象災害に強い生産基盤の整備

【現状】

< 農業基盤整備の状況 >

【現状】

土地基盤整備面積：59.4% (R6)
畑地灌漑整備率：16.8% (R6)
水源整備率：17.4% (R6)

竹富町全体値

【目標】

土地基盤整備面積：66% (R6)
畑地灌漑整備率：26% (R6)
水源整備率：27% (R6)

竹富町全体値

・波照間島の土壌は性質上干ばつの影響を受けやすく、また平らな地形であり、台風の影響を受けやすく、かん水設備や防風林の整備を進める必要がある。

【課題】

- ・波照間の土壌は島尻マーヅで干ばつの影響を受けやすい。
- ・平坦な地形で台風被害を受けやすい。
- ・かんがい施設の整備の推進

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・防風・防潮林の整備(町、県)
- ・かんがい施設等の整備(町、県)

【計画】

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・干ばつ対策の具体的な実施方法の検討

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・必要な基盤整備を地域の実情に応じて着実に進める。

【自由記述欄】 ※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

2 生産基盤の強化

② 機械化一貫体系の確立

【現状】

令和6/7年 刈取・脱葉面積

(1) 刈取

		処理面積 (ha)	処理量 (t)
人 力		0.3	17.7
機 械 刈 取		219.0	13402.5
1	刈 取 機	187.8	11493.3
2	ハーベスタ	31.2	1909.2
合 計		219.3	13420.2

(2) 脱 葉

		処理面積 (ha)	処理量 (t)
人 力		188.1	11511.0
機 械 脱 葉		31.2	1909.2
1	ドラム脱葉機		
2	ベビー脱葉機		
3	チョッピングコンベア式脱葉機		
4	ハーベスタ	31.2	1909.2
5	集中脱葉施設 (人力 無脱葉)		
6	その他 (名称:)		
合 計		219.3	13420.2

今後の機械導入予定(目標)

ハーベスタ(中2・小1)	3台
刈倒機	2台
トラクター(大2・中2・小2)	6台
ロータリー	3台
中耕ローター	2台
リバーシブルプラウ	1台
プラソイラ	2台
全茎式プランタ	1台
ビレットプランタ	2台
複合株出管理機	2台
マルチャー	1台
ハイクリブームスプレーヤ	2台
自走式動噴	3台
ユニック車(苗搬入機)	2台
トラクターけん引トレーラー	2台

- ・刈倒機3台、R6に中型ハーベスタ1台導入し2台体制となっている。
- ・担い手不足等に対応する集中脱葉施設の導入が必要である。

【課題】

- ・更なる収穫作業の機械化が必要であり、含みつ糖に適した機械収穫体系の検討が必要である。
- ・作業受託組織等の育成を図る必要がある。
- ・既存収穫機械の老朽化により更新する必要がある。
- ・集中脱葉施設の早期導入

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ハーベスタ機能向上事業の実施（県、町、JA）
- ・機械導入事業の継続実施（国、県、町、JA）
- ・オペレータ及び受託組織の育成による安定した作業受委託体制の構築（県、町、JA）
- ・集中脱葉施設の導入の検討（国、県、町、JA）

【計画】

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ハーベスタ機能向上事業の実施（県、町）
- ・機械導入事業の実施（国、県、町）

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・機械導入方針による計画的なハーベスタ、株出管理機、植付機等の導入
- ・ハーベスタ機能向上事業の継続実施（県、町）

【自由記述欄】 ※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイディア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

2 生産基盤の強化

③ 地力の増進

【現状】

- ・製糖工場から出る余剰バガス及びフィルターケーキを圃場へ投入している。
- ・緑肥栽培(クロタラリア)による土づくりを実施している。

【課題】

- ・堆肥の活用が進んでいない。
- ・製糖工場から排出される原料を活用した地力向上対策の推進

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・フィルターケーキ活用による植付時の覆土や補植苗作りの技術普及（工場）
- ・緑肥栽培による土づくりの推進（工場、JA）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃を実施する予定の取組を記載

- ・ 植付前の緑肥栽培の推進。
- ・ 深耕や心土破碎の実施

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ マニユアスプレッダーの導入による堆肥や土壌改良資材の散布

【自由記述欄】 ※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

3 技術対策

① 病虫害防除

【現状】

- ・令和5年度に実施したさとうきび増産緊急対策事業の効果によりメイチュウ被害が減少した状態が継続している。これにより、夏植・株出についてはメイチュウの被害は減少傾向にある。
- ・収穫後半にヤソ被害が増加する。
- ・資材価格高騰により農家個々での農薬散布が少なくなっている。

【課題】

- ・病虫害の発生源となるほ場周辺の除草管理が不十分である。
- ・イネヨトウ他メイチュウの発生密度が高く、芯枯被害が懸念される。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・メイチュウ類対策では交信攪乱法等の技術や、粒剤施用を活用した共同防除を徹底する。（県、町、さとうきび協議会）
- ・防除講習会による適期防除の指導（県、町、さとうきび協議会）
- ・防除機械の整備。共同防除体制の整備による一斉防除（町、工場、さとうきび協議会）

【計画】

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃を実施する予定の取組を記載

- ・発生予察情報、巡回等により病虫害の発生状況を確認し、初期防除に努める。
- ・防除講習会による適期防除の指導
- ・防除機械の整備。共同防除体制の整備による一斉防除

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・品種構成の適正化。
- ・ドローン等のスマート農業技術の導入による防除作業の省力化。

【自由記述欄】 ※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

3 技術対策

② 台風・干ばつ対策

【現状】

【台風対策】

・倒伏に強く、糖度が安定したNi27号が主力となっているが、台風被害リスクを分散するため抵抗性品種、耐病性品種の導入を進めている。

【干ばつ対策】

・水源・灌漑整備率が低いにも関わらず、対策の検討が不十分である。
・かん水用トラックでの散水対策が必要。

今後は展示圃場を活用したかん水の効果的な啓発や、補助事業の活用による生産性向上支援も必要であるとともに、気象災害への対応力の強化が急務となっている。

【課題】

・防風防潮林の整備促進、育樹等管理作業の重要性に関する普及啓発
・干ばつ要件発生時の事業活用による生産回復を図る。

【課題に対応した取組及びその実施者】

・講演会による普及啓発や地域生産者等による植樹、育樹活動の実施（県、町）
・かん水事業による干ばつ対策の助成（さとうきび協議会、町）
・溜め池等の水源確保やかんがい整備、点滴チューブ等の適期かん水の普及促進（さとうきび協議会、町、県）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・地域の干ばつ対策会議の開催によるかん水等対策の実施
- ・セーフティ基金事業活用による自然災害（台風・干ばつ）への対策

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・耐風性、耐干ばつ性品種の育成・導入
- ・育樹等管理作業の徹底による防風・防潮林の整備

【自由記述欄】※例）国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

3 技術対策

③ 優良品種の選択・普及

【現状】

	<品種別作付け面積の推移>					
	栽培比率(%)					
	Ni15	NiF8	Ni21	Ni27	Ni26	NiH25
H28	27.9	0.7	4	61.2	3.3	2.7
H29	32.3	0.6		57	3.1	2.8
H30	31.6	0.4		58.18	5.1	1.1
R元	29.7			61.4	1.2	2.3
R2	25			68.2	0.8	3.3
R3	18.2			76.2	1.5	2.6
R4	16.4			78.9	1.3	1.9
R5	16.1			79.1	1.9	1.2
R6	15.6			78.9	0.5	1.6

【課題】

- ・気象災害、病害虫に対するリスク分散を図るため、品種構成の適正化を図る必要がある。
- ・含蜜糖生産地域向けの品種の育成、選定

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・種苗対策事業による優良種苗ほの設置（県、町）

【計画】

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・品種に対する理解を共有するため、栽培講習会を実施する。
- ・無病健全苗に対する講習会を実施し、種苗対策の強化に努めていく

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・新品種の導入等による品種構成の適正化を図る。
- ・株出萌芽性、早期高糖性、機械収穫適応性等、地域に適応した安定多収品種の育成・普及を図り、生産性や品質の向上に努める。また、黒糖品質に優れた品種の選定、育成を促進する。
- ・各地域で必要な品種を情報収集し、地域の要望に沿った品種の育成を図る。

【自由記述欄】 ※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア要望等

—

重点課題における関係者の役割分担と実施状況

重点項目： 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
竹富町					・認定農業者の育成 ・共済加入促進 ・中間管理機構の活用	・再認定の促進 ・共済PR動画の周知 ・地域計画協議の場での説明
普及課					認定農業者の育成	農業経営改善計画作成指導
波照間製糖					オペレータ育成 共済加入協力	受託体制の強化

重点項目： 機械化一貫体系の確立

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
竹富町					・事業導入計画 (機械、精脱施設)	機械導入方針に基づく実施及び 予算措置
JA					事業導入計画作成	機械導入方針に基づく実施
波照間製糖					事業計画作成における 情報提供等	機械導入方針に基づく実施

重点項目： 地力の増進

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
竹富町					・地域資源循環型農業 (堆肥づくり)の推進	耕畜連携体制の構築
普及課					栽培技術指導	現地検討会の実施
波照間 製糖工場					栽培技術や土づくりの普及	耕畜連携体制の構築

さとうきび関係事業の活用実績（R7年度～）

【国補正事業（生産対策）】

事業年度	取組内容	計画額	うち補助金	実績額
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

【セーフティネット事業】

事業年度	取組内容	計画額	うち補助金	実績額
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

【実証・研究事業（国事業・県事業）】

事業年度	事業名	取組内容	総事業費	補助金	その他
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-

【機械導入（国事業・県事業）】

事業年度	事業名	導入機械	総事業費	補助金	その他
-	平成28年度補正 農業機械リース支援事業	ケーンハーベスター TM-2008	-	-	-
-	令和5年度補正予算 さとうきび生産向上緊急支援事業 令和6年度 沖縄県さとうきび 安定生産生産確立対策事業	ケーンハーベスター YT-6500	-	-	-

【市町村単独事業】

事業年度	市町村名	事業名	取組内容	予算額	実績額
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-

(参考情報①)

1. 県(島)の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

日本最南端の有人島。島の周囲14.8km、面積12.77km²で比較的平坦な地形が広がっている。
さとうきびを中心とする農業が島の主な産業である。

2. さとうきび生産の現状

生産の現状
令和6年度における波照間島のさとうきび生産量は13,420+であり、目標値である11,500+の約116%に達した。前年(令和5年度)の実績は10,417トンであったため、約3,000+の増加となり、安定生産を維持している。しかしながら農家戸数の減少や高齢化の傾向は依然として続いており、持続的な生産体制の構築が求められている。

【近年の作物別作付面積の動向】

(1) 作物別作付け面積の動向

(2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	耕地面積	作付面積	耕作放棄地	さとうきび	かんしょ	水稻	野菜	飼料作物	その他
H17	—	—	—	198	—	—	—	—	—
H18	—	—	—	181	—	—	—	—	—
H19	—	—	—	185	—	—	—	—	—
H20	—	—	—	178	—	—	—	—	—
H21	—	—	—	170	—	—	—	—	—
H22	—	—	—	193	—	—	—	—	—
H23	—	—	—	180	—	—	—	—	—
H24	—	—	—	202	—	—	—	—	—
H25	—	—	—	203	—	—	—	—	—
H26	—	—	—	210	—	—	—	—	—
H27	—	—	—	199	—	—	—	—	—
H28	—	—	—	191	—	—	—	—	—
H29	—	—	—	210	—	—	—	—	—
H30	—	—	—	192	—	—	—	—	—
R元	—	—	—	216	—	—	—	—	—
R2	—	—	—	209	—	—	—	—	—
R3	—	—	—	233	—	—	—	—	—
R4	—	—	—	189	—	—	—	—	—
R5	—	—	—	191	—	—	—	—	—
R6	—	—	—	219	—	—	—	—	—

	収穫面積 (ha)				単収 (t/10a)				生産量 (t)				糖度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	190.8	1.12	6.25	198.17	5932.0	2960.0	2084.0	3658.7	11318	33.148	130.24	11481	15.22
H18	176.25	0.078	3.68	180.01	6446.0	4389.0	3113.0	4649.3	11362	34.238	114.56	11511	16.2
H19	178.51	3.14	3.76	185.41	6729.0	4190.0	3352.0	4757	12011	131.55	126.03	12269	15.07
H20	171.4	0.28	6.73	178.41	6388.0	3203.0	2544.0	4045	10949	8.969	17.122	10975	17.01
H21	163.39	2.11	4.93	170.43	8327.0	5263.0	4872.0	6154	13606	111.05	240.18	13958	17.39
H22	183.93	0.35	8.48	192.76	8374.0	4975.0	4332.0	5893.7	15402	17.412	367.33	15787	15.4
H23	161.89	1.14	16.53	179.56	5070.0	4192.0	4350.0	4537.3	8208	47.787	719.07	8974.8	16.04
H24	172.9	1.91	27.61	202.42	5643.0	4164.0	2972.0	4259.7	9755.9	79.535	820.52	10656	15.4
H25	162.63	1.2	39.52	203.35	5801.0	38145.0	2389.0	15445	9434.1	38.145	943.99	10416	15.9
H26	166.61	1.85	41.23	209.69	3742.0	1786.0	2529.0	2685.7	6235	33.033	1042.5	7310.6	14.9
H27	153.17	4.02	41.74	198.93	6063.0	2407.0	2291.0	3587	9286	96.745	956.4	10339	14.2
H28	153.75	1.33	35.52	190.6	7462.0	4965.0	3936.0	5454.3	11472	66.041	1398.2	12937	15.5
H29	146.84	1.48	61.58	209.9	6516.0	3782.0	4095.0	4797.7	9568.6	55.969	2521.5	12146	15.3
H30	124.44	0	67.59	192.03	7370.0	0.0	4544.0	3971.3	9171.5	0	3071.6	12243	16.2
R元	142.75	2.6	70.18	215.53	6143.0	3551.0	3589.0	4427.7	8769.5	92.335	2518.8	11381	16.1
R2	126.03	2.24	80.35	208.62	6929.0	4842.0	4735.0	5502	8732.2	108.46	3804.6	12645	16.6
R3	140.11	0.54	92.82	233.47	6642.0	2295.0	4110.0	4349	9305.4	12.394	3814.5	13132	16.3
R4	105.78	0	83.11	188.89	5295.0	0.0	3060.0	2785	5601	0	2543.4	8144.4	14.9
R5	105.28	2.98	83.18	191.44	6324.0	5060.0	4338.0	5240.7	6657.9	150.78	3608.5	10417	16.4
R6	122.33	0.35	96.65	219.33	7660.0	7319.0	4164.0	6381	9370.3	25.617	4024.2	13420	15.8

(参考情報②)

【年齢階層別農家戸数】

	29歳以下	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	合計
H17	3	7	26	40	37	—	113
H18	3	8	24	38	39	—	112
H19	3	9	14	29	55	—	110
H20	4	8	17	38	44	—	111
H21	4	7	13	28	50	—	102
H22	5	10	13	27	50	—	105
H23	4	11	5	32	51	—	103
H24	3	14	10	23	51	—	101
H25	2	12	4	39	48	—	105
H26	2	11	7	34	25	22	101
H27	0	13	10	36	23	22	104
H28	0	11	8	31	25	20	95
H29	0	11	10	27	30	12	90
H30	0	9	11	18	29	20	87
R元	0	9	12	19	31	15	86
R2	0	10	13	13	30	18	84
R3	0	8	17	13	24	16	78
R4	0	8	13	12	23	15	71
R5	0	7	11	10	24	15	67
R6	0	4	14	9	27	15	69

【経営（収穫）規模別農家戸数】

	100a未満	100~300a 未満	300~500a 未満	500a以上	合計
H17	23	70	17	3	113
H18	28	76	7	1	112
H19	27	73	9	1	110
H20	29	72	9	1	111
H21	29	62	10	1	102
H22	29	68	7	1	105
H23	29	66	11	1	107
H24	25	60	15	3	103
H25	23	63	13	2	101
H26	27	64	15	3	109
H27	22	62	14	2	100
H28	8	29	35	25	97
H29	19	49	15	7	90
H30	18	49	16	5	88
R元	14	44	22	6	86
R2	33	49	4		86
R3	20	60	16	4	100
R4	12	35	19	6	72
R5	14	30	18	6	68
R6	12	27	20	10	69

【製糖工場の操業状況】

	操業率 (%)	操業期間 (日)	歩留 (%)	トラッシュ率 (%)
H17	-	102	14.05	-
H18	-	101	15.02	-
H19	-	111	14.04	-
H20	-	108	16.43	-
H21	-	130	15.77	-
H22	-	135	14.06	-
H23	-	87	15.76	-
H24	-	96	15.14	-
H25	-	100	15.12	-
H26	-	70	13.43	-
H27	-	116	12.9	-
H28	-	133	14.44	-
H29	-	121	14.55	2.00
H30	-	124	14.92	2.30
R元	-	110	14.45	2.40
R2	-	125	15.44	2.10
R3	-	125	10.94	3.40
R4	-	87	14.1	3.20
R5	-	102	15.15	3.10
R6	-	139	14.37	3.20

(参考情報③)

【作業受託組織の状況】

	農作業受託組織数			農作業受託調整組織の有無と役割		
	合計	組織	個人	有無	名称	役割
R7	1	1	-	-	波照間さとうきび生産組合	ハーベスター及び刈り倒し機による収穫作業

【作業委託料金】

作業名	料金	料金の設定方法及び島内の料金体系	備考
収穫	0	¥7,200/1h(刈り倒し機) ¥9,000/1h(ハーベスター)	-
植付	0	-	-
株出管理	0	-	-
防除	0	-	-
その他	0	-	-

(参考情報④)

【畑地かんがいの整備状況】

	貯水施設		畑地かんがい 整備率	かん水方法			畑地かんがい整備の現状と 整備率向上に向けた今後の取組
				形態	使用料金	使用条件等	
R7	地下ダム	-	-	-	-	-	-
	ダム	-	-	-	-	-	-
	ため池	4ヶ所	-	Ⅱ型	100円/m ³	給水栓1戸につき 1,000円徴収	生産農家はスプリンクラーの導入を 求めているため、国、県の整備事業計画に 載せる様に協議中
	その他	-	-	-	-	-	-

(参考情報⑤)

【共済加入目標】

	H26	R6	R7	R8	R9	R12	R17
有資格戸数	112	67	67	67	67	67	67
加入戸数	90	47	50	55	55	60	67
戸数引受率	80.4	70	75	82	82	89	100
対象面積	218	191	191	191	191	191	191
引受面積	204	170	178	182	182	185	191
面積引受率	93.2	89	90	92	92	95	100
支払金額	68,177	95(見込)	—	—	—	—	—

【収入保険制度への加入目標】

	H30	R6	R7	R8	R9	R12	R17
有資格戸数	—	—	—	—	—	—	—
加入戸数	—	1	1	—	—	—	—
引受面積	—	6	6	—	—	—	—
面積加入率	—	3	3	—	—	—	—

(参考情報⑥)

【作型別割合】

	夏植	春植	株出し
H17	96	1	3
H18	98	0	2
H19	96	2	2
H20	96	0	4
H21	96	1	3
H22	95	0	4
H23	90	1	9
H24	85	1	14
H25	80	1	19
H26	79	1	20
H27	77	2	21
H28	81	1	19
H29	70	1	29
H30	65	0	35
R元	66	1	33
R2	60	1	39
R3	60	0	40
R4	56	0	44
R5	55	2	43
R6	56	0	44
R17(目標)	39.02	2.44	58.54

【株出し回数別面積】

	株出し回数別面積 (ha)										平均回数
	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	
H17	28		1								1.07
H18	16										1.00
H19	22										1.00
H20	25		1								1.08
H21	25	1	1								1.11
H22	35	1	1								1.08
H23	47	4	1								1.12
H24	64	13	7	1							1.35
H25	32										1.00
H26	40	2									1.05
H27	32	10									1.24
H28	32	4									1.11
H29	55	6.4	0.5								1.12
H30	56	11	0.6								1.18
R元	54	14	2.1								1.25
R2	71	8.5	1.1								1.13
R3	69	22	0.9								1.26
R4	65	17	1.4								1.24
R5	63	17	3								1.28
R6	72	21	3.5	0.2							1.30
R17	80	15	5								1.25

富町全体

(参考情報⑦)

【近年の品種別作付面積の推移】

作型	夏植						春植						株出し						合計					
	Ni15	NiH25	Ni26	Ni27	KY99-176	その他	Ni15	NiH25	Ni26	Ni27	KY99-176	その他	Ni15	NiH25	Ni26	Ni27	KY99-176	その他	Ni15	NiH25	Ni26	Ni27	KY99-176	その他
H17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	159	0.5	2.7	0.8		30
H23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	116	2	10	26		26
H24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	91	1.8	13	62		34
H25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	62	3.8	22	93		23
H26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	45	6.3	8	131		18
H27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	42	7.6	14	123		12
H28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50	4.8	6.3	120		8.9
H29	58	4.3	3.1	73	3.2	5	0.4			1		0.1	9.6	1.7	3.4	45	0.1	1.6	68	6	6.5	120	3.2	6.7
H30	49	1	3.7	66	1.2	4							12	1.1	6	46	0.3	2.4	61	2.1	9.7	112	1.5	6.3
R元	46	2.6	1.7	85	2.6	5.5	1.1	0.2	0.1	0.3	0.2	0.7	15	2.8	0.6	49	1	1.5	62	5.6	2.4	134	3.8	7.7
R2	35	3.9	1.1	83	1.4	1	1	0.5	0	0.6	0.2		14	2.7	0.5	60	1.6	1.4	50	7.1	1.7	144	3.2	2.4
R3	28	3.1	2.3	105	1.4	1	0.2			0.2		0.1	13	3.2	1	75	0.7	0.4	41	6.3	3.3	179	2.1	1.5
R4	20	2.2	0.8	82	0.7	0.1							9.7	1.3	2	67	2	0.7	29	3.5	2.8	150	2.7	0.8
R5	19	0.7	1.2	83	0.7	0.5	0.5	0.3	0.5	1.4		0.3	12	1.4	1.9	67	1.1	0.3	31	2.4	3.7	152	1.8	1.1
R6	22	2.5	0.5	93	2.4	2				0.2		0.1	10	0.7	0.7	84	0.9	0.5	32	3.2	1.2	176	3.3	2.7